

VI. 畜産（H29年3月）

実況

1 平成28年度第22回石川・福井合同肉牛枝肉販売会（平成29年2月6日）

		頭数	単価 (円/kg)	販売価格 (円/頭)	枝肉重量 (kg)	BMS (No.)	ロース芯 面積 (cm ²)	上物率 (%)
去勢	福井	9	2,661	1,287,470	481	6.6	61.1	89
	全体	36	2,481	1,202,560	482	7.0	58.3	89
雌	福井	5	2,452	1,141,959	462	5.8	56.6	80
	全体	12	2,165	907,143	412	4.8	52.5	58

全体の最高価格は、1,624,095円、去勢牛（秀菊安×勝平正×福之国）、29.4カ月齢、A-5（BMSNo11）、枝肉重量561.0kg、ロース芯面積69cm²であり、出生地は宮崎県であった。福井の枝肉単価は、前回より、去勢で59円安く、雌で24円安かった。

2 平成28年度第23回石川・福井合同肉牛枝肉販売会（平成29年2月20日）

		頭数	単価 (円/kg)	販売価格 (円/頭)	枝肉重量 (kg)	BMS (No.)	ロース芯 面積 (cm ²)	上物率 (%)
去勢	福井	8	2,702	1,236,938	457	6.3	57.8	100
	全体	32	2,335	1,091,915	465	6.3	57.2	88
雌	福井	9	2,468	1,077,036	432	6.2	59.7	78
	全体	20	2,468	1,060,180	425	7.2	60.9	90

全体の最高価格は、1,524,784円、去勢牛（勝平正×福桜（宮崎）×平茂勝）、29.5カ月齢、A-5（BMSNo8）、枝肉重量535.2kg、ロース芯面積68cm²であり、出生地は宮崎県であった。福井の枝肉単価は、前回より、去勢で41円高く、雌で16円高かった。

対策

■今月の重点ポイント

1 肉用牛

○皮膚病対策について

冬季から春先にかけては、皮膚病の牛を多く見かける。牛舎中に広がり、牛に多大なストレスがかかる前に治療を行う。真菌によって眼の回りなどが禿げている場合はナナオマイシンなどの抗真菌剤を塗布するか、アストップなどの消毒薬を100倍希釈して塗ると効果がみられる。体毛の脱落があったり、フケが多く痒みがあるようならば、その部分の体毛を引き抜いて眼を凝らすと、シラミなどの外部寄生虫が見える場合があるので、その場合はバイチコールなどの薬剤で駆虫すると改善される。ただし、いずれの場合も出荷制限によく注意し、肥育後期の牛には計画的に薬剤を用いるようにする。

2 豚

○春先の哺乳豚の管理については以下の点に注意する。

- (1) 暖かくなると哺乳豚の暖房に対して意識が薄くなりがちであるが、生後1週間以内の局所暖房は30℃以上に保ち、豚舎内も20℃以上を保持する。
- (2) 生後一週間が経過したころから下痢（特に大腸菌症）の発生が多くなるので、早期発見・早期治療を心がける。
- (3) ミルクの餌付けは、生後5～6日頃から行い、早くミルクになれさせる。ミルクは腐敗しやすく、また食べ過ぎると下痢の原因ともなるので、適切な量を、毎日給餌する。ミルクは水分が混じると固まりやすくえさ箱に詰まりや

すいのでチェックは怠らない。

- (4) 母豚の分娩間隔の短縮のため早期離乳が提唱されているが、離乳時の子豚が小さいと肥育期間に影響するので、離乳体重は6.5～7kgを目安にする。

3 鶏

○採卵鶏の春期管理について

春期は、気温の日較差が大きく、一年のうちで舎内の環境作りが最も難しい時期である。このため、一般管理について以下の点に留意する。

- (1) 日照時間の延びと気温

徐々に日照時間が延びて暖かくなるので、産卵率は向上し、鶏の動作は活発になってくる。しかし、まだ寒さも残るので、舎内の温度差をできるだけ少なくするよう、カーテンや換気扇の操作はこまめにする。ただし、カーテンを開放するときは温暖な気象で無風状態のときに行う。

- (2) 飼料摂取量の増加

飼料の消費量は増加し、1日1羽あたり120g台まで摂取するようになる。鶏は、飼料が不足しても身を削って産卵するので、気付かずに過ぎると5月以降になって休産する場合もある。残餌をチェックしながら飼料給与量を増加する。

- (3) 乾燥対策

一年の中で乾燥し易い時期にあたり、ホコリの発生が多くなる。マレック病ウイルスなど病原微生物の中には、ほこりを介して感染するものもあるので、必要に応じて通路などに水を散布し、電灯や換気扇に付着したほこりは除去する。

- (4) 駆虫

気候が暖かくなるにつれて、ワクモなどの寄生虫の活動が活発となるので、観察して駆虫を実施する。